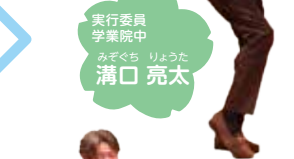




実行委員長
太宰府中
すぎもと はつかり
杉本 八海



実行委員
学業院中
あでぐさ りょうた
溝口 亮太



実行委員
学業院中
さと り
佑哉



式典であいさつする楠田市長



実行委員
太宰府西中
あか お けんせい
赤尾 賢星



実行委員
太宰府西中
しろうず ゆうと
白水 結人



副実行委員長
太宰府西中
みやの りはうせい
宮野 竜誠



実行委員
太宰府中
こみなと さき
米湊 咲希



実行委員
太宰府東中
いわたに らいむ
岩谷 来夢

新たな門出のお祝い

令和の都だざいふ

二十歳のつどい

問い合わせ 社会教育課 社会教育係 (☎内線452)

対象者 742人
参加者 536人
太宰府 79人
学業院 158人
太宰府東 52人
太宰府西 123人
その他 124人

※対象者は、令和6年7月1日時点の市内在住。その他は同時点で市外在住など。

新たな一歩を踏み出す、
二十歳の誓い

1月12日(日)、プラム・カルコア太宰府(中央公民館)で、「令和の都だざいふ二十歳のつどい」が開催され、市内の742人が人生の節目である20歳を迎えました。

初めに実行委員が作成した「恩師からのビデオレター」を上映。懐かしい先生たちの顔と激励のメッセージを見た参加者たちから、驚きの声や笑い声が会場に響き渡りました。

式典では、実行委員長の杉本八海さんが参加者を代表してあいさつし、「私たちは今、勉学に励んだり、仕事をしたり、子育てをしたりとさまざまな立場で日々を過ごしています。それぞれが選んだ道でこれから目いっぱい輝き、恩返しをしていきたいと思えます」と力強く述べました。

未来に向かって大きな一歩となる、希望にあふれる1日となりました。



ワンちゃんも正装です



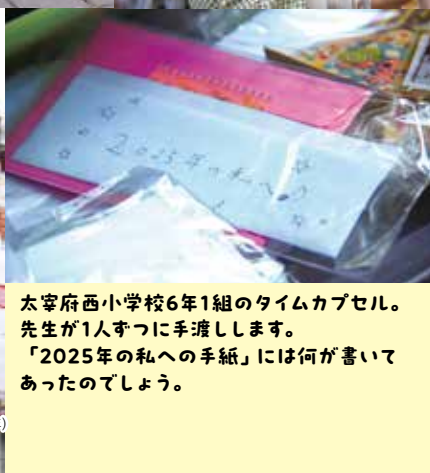
懐かしい思い出話と近況報告がいっぱいで話が尽きません



人力車での登場にびっくり



振り袖姿で記念撮影



太宰府西小学校6年1組のタイムカプセル。先生が1人ずつに手渡しします。「2025年の私への手紙」には何かが書いてあったのでしょうか。



同じ
中学校で
大集合！

ただいま、 太宰府



令和の都ださいふ応援大使
太宰府市出身・俳優

ふくだめい
福田 愛依 さん

3歳から太宰府で育ち、18歳で上京した福田愛依さん。再び、ふるさとの太宰府に帰って来ました。これから、東京と福岡の両方を拠点にした新たな人生のページが始まります。

福岡と東京、2拠点の生活を決めた理由

今やっている芸能のお仕事を長く続けたい気持ちが一番大きいです。続けるために、最終的には福岡に帰ってきたい思いがあります。もう少し先の30歳になるくらいのタイミングで帰ろうかと自分の人生の計画にはありましたが、それだと遅いなと思いました。24歳になった今、自分の今後を考える時間が増えたんです。その時に、福岡に帰って一人でも多くの方に認知してもらって、自分にできることがあればいいなと感じました。

上京してから 気持ちの変化は

やっぱり東京は刺激的なまちなので、太宰府で経験できなかったことがありました。例えば、周りには一流の方がいるプロの世界がたくさんあって、どんな職業の方にも会ってもリスペクトの感情を抱きました。新しい情報が次々に入ってきて、色々なお話を聞けたのは自分の成長にとっても良かったと感じます。

離れてわかる太宰府の良さもありました。高層ビルがなく空が広く感じます。わたしにとって豊かな自然は心の栄養です。そんな景色を見ながら、車を運転しても散歩しても気持ち良くて、最高です。学校が多くてまちに家族の姿があるのも温かいです。福岡市とちがう太宰府市ならではのゆっくりとした空気がわたしは好きです。

20のみなさんへ

今20歳のみなさんは、高校時代にコロナ禍で色んな行事が中止になった世代だと思います。今回の二十歳のつどいのようにイベントが再開して集まれるようになったのは、本当に良かったと思います。わたしは当時、コロナ禍もあり東京から戻って成人式に参加することができなかったので、みなさんが羨ましいです。

今後の目標は

福岡と東京の2拠点で活動するという大きな決断をしました。まずは福岡で一人でも多くの方に知っていただき、出演する番組や地域の活動とおして、福岡を盛り上げるチームの一員(仲間)になりたいです。東京でも挑戦を続けたいので、戦う気持ちは忘れずに持っています。オーディションも受けているので、良い結果が得られるように活動を続けていきたいです。



プロフィール

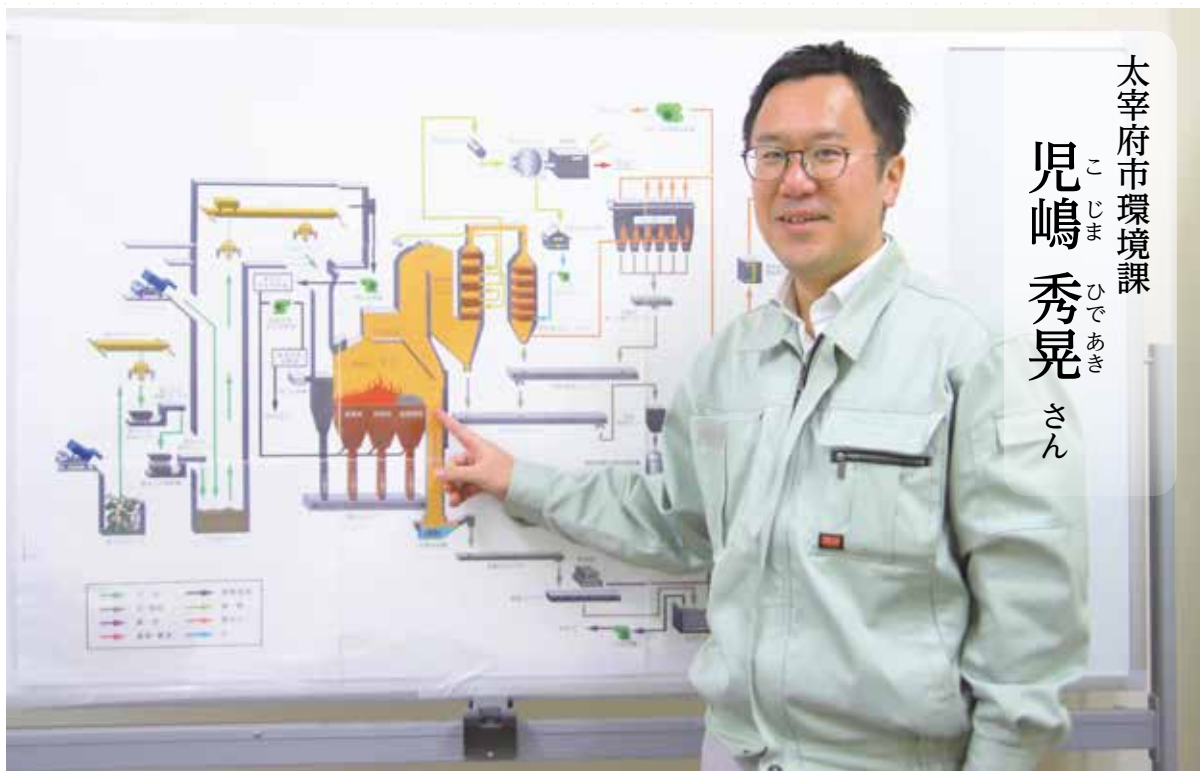
2000年11月8日生まれ。「女子高生ミスコン2017-2018」で応募総数30万人の中からグランプリに選ばれ芸能界デビュー。FBS「博多弁の女の子はかわいいと思いませんか?」やNHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』、EX「私たちが恋する理由」など数多くの作品に出演。またNTV「ZIP!」のキテルネ!リポーターやFBS「バリはヤッ!」のリポーター、KBC「ぎゅっと」の木金レギュラーを務める。TikTokのフォロワー数は31万人。地元・福岡県太宰府市の「令和の都ださいふ応援大使」に就任中。



Uターンした先輩からのメッセージ

太宰府市環境課

こじま ひであき
児嶋 秀晃 さん



就職で県外へ

県内の大学を卒業後、建築関係のシステムを開発する会社へ就職しました。東京での研修を経て、大阪に配属されて、地元を離れた生活を2年間送りました。

当時は、どうしても一度、地元を出てみたいという思いがありました。仕事では、自分がこなす仕事量で評価されて、自立して一人で行うことの幸せも感じました。

家族のすすめでUターン

きっかけは、家族のすすめと実家に対する責任の意識です。就職で地元を離れることにはしましたが、いつか地元に戻ることは頭の中にありました。

当時、ちょうど市役所職員の募集があり、採用試験を受けることにしました。採用されてからは、上下水道施設課や東日本大震災復興支援の多賀城市派遣、観光推進課を通じて、地域のために働くやりがいを感じています。現在は、市の環境課に所属しながら、福岡都市圏南部事業組合に出向中です。

地域の一員として

公私ともに、わたし自身の意識が変わったのは、地域での活動です。市役所入庁とともに、地元の消防団に入団して操法大会へ出場しました。分団の仲間の人々と力を合わせて一つになることで、地域の一員として認められた感覚がありました。

さらに、つくし青年会議所に入会して、多様な価値観を持つ地域の仲間と出会いました。地域のためにできることを日夜話し合い、活動を展開しました。市職員と異なる視点でも、まちづくりを考える貴重な機会をいただきました。

生まれ育った地元で、戻って来てからも沢山の人の出会いに恵まれて、かけがえのない仲間ができたことは、わたしにとって大事な財産です。

この場所で世代がつづくこと

現在、3人の子どもがいます。わたしの子ども・孫と、この場所で世代がつづいていけば良いなと思います。父として、太宰府市で暮らす一人として、「ここで働きたい」と思ってもらえるように背中を見せていきたいです。

今はリモートワークもあって、場所にしばられない働き方もあります。20歳の皆さんにも、ぜひ、地元に戻って働く選択肢を持ってほしいです。